

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組
-------	------	-----	-----------	------	-----	----------	------------

特別な支援が必要な児童への支援を充実させるための取組

府中市立上下南小学校 校長名：東 博晃

【施設泊・自校泊】四季の里，キャンペーンふちゅう，自校・旧矢野保育所

キーワード：視覚的支援・見通し

1 子供たちが安心して，夢中になれる環境づくり

野外での活動に際しては，いつもとは違う環境での学習になります。そういった環境になった時にも，子供たちが安心して活動できるように，3泊4日全体の活動の流れや次に行動しなければならないことについて，一人一人の子供たちが理解をすることが重要だと考えています。

これらは，普段の学校生活においても大切にしていることではありますが，違う環境になった時にも，同様に，子供たちが安心して活動に夢中になれるように環境を整えています。

2 具体的な手立て

(1) 視覚的な支援

活動全体の流れを，子供たちが常に確認できるように掲示をしています。子供たちは，口頭での指示だけでなく，この流れを確認して次の行動は何かを確認しています。

活動場所の移動に伴い，折りたたんで持ち歩くこととなるので，3泊4日が終わるころには，くしゃくしゃになってしまいました。

時刻	児童の行動
6:00	起床 洗面 歯みがき 着替え
6:30	清掃 荷物整理
6:45	朝のつどい
7:00	朝食の準備・朝食 片付け
9:20	POM(よむの国看)
9:30	POMで活動(工作体験)
11:30	キャンペーンふちゅうへ移動
12:00	昼食(ミディンゲーム)
13:00	B&G カヌー体験
16:00	片付け
16:20	キャンペーンふちゅう着
16:30	入所式 オリエンテーション
18:00	夕食 片付け
19:00	入浴(シャワー)
19:45	活動のふり返り
21:00	就寝準備 荷物整理
21:30	消灯

ポイント：視覚的な支援

自分たちで掲示物などを作成することは，学習内容の理解につながります。学習内容を事前に理解することで，子供たちは安心して活動に向かうことができます。



体験活動のテーマの一つとして，「役目を果たすこと」と掲げました。集団生活をする上で

は、協力することに加え、一人一人がみんなのために取り組むことが重要です。一人一人の子供たちは、そういったことを感じながら活動していました。

分からないことは友達に聞くことなど、学校生活でも大事にしていることと関連させて取り組ませることで、子供たちは、友達同士で教え合ったり相談をしたりしながら取組を進めることができていました。

体験活動での児童の感想

- みんなで協力したらいろいろなことができました。岳山登山をする時、「危ないところがあるよ。」などと声を掛け合って協力し合いました。協力することは大事と思いました。
- 一人ではできないことでも、みんなと協力するとうまくいくことを学びました。
- みんなと協力すると、一人では時間がかかることもすぐにできてしまうことに、自分でも驚きました。体験活動を通じて、みんなで協力することの大切さに気づきました。

(2) 見通しを持たせるための事前学習

体験活動に行く前の事前学習では、全体の流れを学習し、一人一人の子供たちが理解できるようにしました。

本校では、地元の多くの方に支えられて様々な取組をしています。左記の写真は、飯ごう炊飯の食材の買い出しに、近くのスーパーに行っている時の写真です。また、「ユニカール」というカーリングのような競技を、地域の方に教えてもらう活動も行いました。



このようなときにも、まずはしっかりと話を聞くこととし、子供たち一人一人がその場で困らず、それぞれが判断しながら行動できるように、取組を進めました。



特に、ユニカールの取組は、初めて体験する子供とたちも多くいて、地域の方からのアドバイスを聞く場面も多くありました。そういったときにも、「初めての取組だから、まずは、しっかりと話を聞こう。」と子供たちが考えることができるように、「なぜそのようにしないといけないのか」を、子供たちに説明するようにしました。

このことは、日頃の学校生活においても重視をしていることです。子供たちがわくわくするような活動であっても、単に楽しさだけを味わわせるだけではありません。活動の流れを事前に学習し、その時に自分たちがどのように行動しなければならないかを考えさせることで、子供たちは見通しを持った上で、夢中で活動を楽しむことができるのだと思っています。

(3) 活動を振り返る取組

学級・班・個人の目標に照らしてできたことや改善すべきことを、具体的な活動、行動として挙げさせて、どうすると良かったかを考えるようにしました。その結果、成果と課題がより明らかになり、次の日、何を目標としてがんばるのが明確になりました。

また、「協力すること」の意味を振り返り、「声を掛けること」、「できたこと、高まったことは言葉にして伝えること」、「不十分なこと、困っていることをそのままにせず正しく丁寧に伝えること」を意識させました。「協力」するという言葉を、生活の場に広げる取組みを行いました。

ポイント：見通しを持たせる支援

見通しを持たせる習内容を事前に理解することで、子供たちは安心して活動に向かうことができます。また、それを振り返り、子供たちに考えさせることによって、さらに学んだことを活用するまでに高めることができます。

体験活動での児童の感想

- 先生たちの話を最後までよく聞くようにしました。ユニカールでは、地域の方からのアドバイスを受けながら楽しくできました。
- ユニカールでは、チームで作戦を立てたことが楽しかったです。
- 最後に転倒して残念だったが、カヌーの漕ぎ方がだんだん分かってきました。
- ふりかえりの会では、相手が納得できるように自分の気持ちを伝えることができました。

体験活動を終えた保護者の感想

- 子供同士や先生と子供たちとの関係においては、「協力」や「妥協」ということが、親子関係よりも大切で、必要となることを、帰って来てからの表情や感想から感じました。
- 今まで以上に自分で考えて行動できるようになってきました。家での手伝いを、言われてするのではなく、自分から気づいてすることが増えてきました。

さらにステップアップ!!



野外での活動では、話を聞くだけでは理解できないこともあります。そういった時には、視覚的な支援が重要です。昨年度の様子などの写真を見せるなどの視覚的な支援を行うなどが効果的です。

あらかじめ子供たちにとって理解が難しそうな活動であれば、事前指導として、学級活動として、事前にルール等を学習しておくことなどの支援を考える必要もあるでしょう。